

令和 7 年度

教育委員会の事務執行に関する評価
(令和 6 年度対象)

令和 7 年 1 2 月 2 日

みやこ町教育委員会

目次

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動	2
II 教育委員会が管理・執行する事務	4
III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	8
1 子どもの教育環境の充実	9
2 社会教育の充実	2 3
3 スポーツの推進	3 3
4 地域文化の継承と振興	4 1
外部評価委員会の所見	4 5

教育委員会の事務執行に関する評価の概要

1. 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成20年4月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、自己点検および評価を行い、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

みやこ町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことにより、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

このことを踏まえて、令和4年度の教育委員会活動を

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理・執行する事務」
- III 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

の3点から、教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評 価 判 断 基 準		
A 達成できた	B おおむね達成できた	C 達成できなかった

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

評 価 項 目	指 標	評価	点 検 ・ 評 価	外 部 評 価
(1) 教育委員会の会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	A (A)	○ 定例会を11回、臨時会を2回実施した。	詳細な説明が行われていることを評価したい。
	② 教育委員会会議の運営上の工夫	A (A)	○ 教育委員会の会議における案件については、事務局から提案し、学校教育課長及び生涯学習課長が説明し、詳細については、担当係長等から補足説明を行った。	
(2) 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	① 教育委員会会議の傍聴者の状況	A (A)	○ 傍聴者3名（延人数）ホームページに開催日時を掲載し、傍聴を促している。	
	② 議事録の公開、広報・公聴活動の状況	A (A)	○ 議事録は、情報公開条例に基づいて、ホームページに掲載して公表している。	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(3) 教育委員の自己研鑽	① 研修会への参加状況	A (A)	○ 教育委員を対象にした研修会に参加した。 ・市町村教育委員会教育委員等 人権教育研修会 5/15 ・市町村教育委員会教育委員 研修会 11/29 ・京築地区教育委員等研修会 1/30	
(4) 学校及び教育施設に対する 支援・条件整備	① 学校訪問	A (A)	○ 入学式、卒業式、運動会等の 学校行事に参加した。 ○ 豊津小・中学校を訪問し、授 業参観を行った。	児童生徒や教職員の頑張りを評 価し、学校へフィードバックす ることを通して、今後も教育活 動を支えていただきたい。
	② 所管施設の訪問	A (A)	○ サン・グレートみやこで開催 された、英語スピーチ大会に 参加した。 ○ サン・グレートみやこで開催 された二十歳の集いに参加し た。 ○ 給食センターの視察を行っ た。	

Ⅱ 教育委員会が管理・執行する事務

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	学校への確実な説明の実施	A (A)	○ みやこ町の教育施策について、定期開催される校長会にて説明した。また随時、各学校に説明、資料を配布した。	
(2) 教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること	規則の制定、改正等	A (A)	○ ・みやこ町いじめ問題対策連絡協議会等運営規則の制定について ・みやこ町教育員会教育長職務代理者の事務委任に関する規則の制定について ・みやこ町立の小規模学校への区域外就学取扱要綱の制定について ・みやこ町学校給食用物資調達納入取扱要綱の全部改正について ・みやこ町教育委員会の公印に関する規則の一部改正について ・みやこ町立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の全部改正について	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
			・みやこ町スクールバス運行規則の全部改正について ・みやこ町立中学校の運動部員及び文化部員の大会出場費助成要綱の全部改正について ・みやこ町学校給食費支援事業基金条例施行規則の制定について	
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	新年度予算の審議	A (A)	○ 新年度予算について報告を受けた。	
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	学校の設置及び廃止	— (A)	○ 該当なし。	
(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関する事	人事の内申	A (A)	○ 管理職人事、人事異動に係る内申を行った。	

評 価 項 目	指 標	評価	点 検 ・ 評 価	外 部 評 価
(6) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること	各委員の委嘱	A (A)	○ 職務の遂行が期待できる適任者の選定に努めた。 ・ 学校評議員 ・ 学校運営協議会委員 ・ 外部評価委員 ・ 学校医 ・ 学校 I C T 教育推進委員 ・ みやこ町教育支援委員会委員 ・ みやこ町通学路安全対策推進協議会委員 ・ みやこ町学校給食センター運営委員 ・ みやこ町学校給食物資選定委員 ・ みやこ町学校給食献立委員 ・ みやこ町社会教育委員 ・ みやこ町公民館運営審議会委員 ・ みやこ町歴史民俗博物館運営委員会委員 ・ みやこ町歴史民俗博物館専門委員会委員 ・ みやこ町スポーツ推進委員会委員 ・ みやこ町スポーツ推進審議会委員 ・ みやこ町図書館協議会委員 ・ みやこ町子ども読書活動推進計画審議会委員	

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(7) 教科用図書の採択の決定に関する事	教科書採択	A (A)	○ 中学校教科用図書の採択決定を行った。	
(8) 通学区域を設定し、又は変更すること		— (A)	○ 該当なし。	
(9) 文化財を指定し、又は指定を解除すること		A (一)	○ みやこ町文化財保護委員会の答申に基づき、小宮豊隆旧居跡を町指定文化財（史跡）に指定した。	
(10) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事			○ 該当なし。	

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

子どもたちが、ふるさとで学び、育ちそして大人になった時ふるさと・みやこ町への愛着と誇りとともに、平和を愛する気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。

そのため、生命を大切に作る心を育てる教育の推進、「みやこ」ならではの文化を活かした活動や、学力の充実・向上、家庭の子育て支援などにより、次世代を担う子供を育てていきます。

また、生涯学習の推進に当たっては、住民一人一人のさまざまなニーズに応じて、住民が主体的に、“いつでも・どこでも・だれでも・なんでも”学ぶことができる学習の場づくりや情報提供を行います。

さらに、地域に伝わる歴史や伝統文化を継承し、活用するとともに、住民の主体的な文化・芸術活動を支援し、文化の薫り高いまちづくりに努めます。

※ 評価項目は、「みやこ町第3次総合計画」の基本計画に示された主要事業をもとに作成しています。

有 効 性	効 率 性	達 成 度	総 合 評 価
事業が目標達成に有効であるかを評価する。	事業が効率的に実施できたかを評価する。	計画通り達成しているかを評価する。	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評 価 判 断 基 準			
A 有効である	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね有効である	B おおむね実施できている	B おおむね期待どおり	B おおむね達成できた
C あまり有効でない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 子どもの教育環境の充実

○施策の方針

「自分のよさに気づき、なりたい自分を見つけ、志を持って成長していく子ども」を育てるため小中連携教育を推進し、国際理解教育の一環として英語教育の充実に努め、今後の多岐にわたる教育的ニーズに応える教育環境の充実に努めるとともに、学校施設の再編整備・充実、チームとしての学校体制の整備に努めます。また、子どもの成長を見守る環境を作り、子どもの安全確保に努めます。学校給食については、関係機関との連携の下、地場農産物の利用を進め、子どもの健康を守る取組を推進します。

主要施策 ①子どもの教育環境の充実に努めます

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
確かな学力の育成	確かな学力育成を図る教職員研修の充実	○町教委主催の若年教員研修を実施し、5年未満の教員及び希望する町雇用講師等へ授業を通して研修を行った。 ○町教委主催で校長研修、教頭研修、主幹教諭・教務研修を実施し、学力向上を図る管理職の役割と具体的指導について研修した。 ≪課題・今後の方向性≫ ○さらに学校と連携して、若年者の指導力向上に努める。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	多様な意識や経験をもつ人材が採用される傾向を踏まえた研修の充実に期待する。
	家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立	○デジタルドリルを購入し、タブレットを活用した家庭学習環境を整備した。 ○小学校に、家庭学習に活用できる副教材を配布し、学力向上につなげた。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	学力向上につながる積極的な取組を評価したい。なお、家庭学習に対する保護者の意識改革と協力を促す学校支援を継続してもらいたい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ H29年度から、小中連携事業を活用して、各中学校区主体で家庭と地域との連携を推進した。 各中学校の現状に応じて、学校生活や基本的な生活習慣に関するリーフレットを作成し、面談で配布する等家庭との連携を図った。 ○ タブレットを活用し、不登校等で授業を受けられない児童生徒とのコミュニケーションや学習の支援を行った。 ○ 地域のボランティアによる各学校校区での登下校の見守りを行った。 ○ 不登校の児童生徒数や状況を把握し、情報を学校に伝えることで、学校に注意を喚起し、マンツーマン対応や「福岡アクション3」の充実した実施を促し、家庭との連携強化を図った。 ○ 各学校で派出所や区長等との連絡会議を行い、児童生徒の状況把握や安全対策等の情報を発信した。 《課題・今後の方向性》 ○ タブレットの持ち帰りを推進し、家庭学習の充実やリモート授業を拡充する。 ○ 各中学校区ごとに、地域の実状や児童生徒の状況に対応した取組みを進める。					家庭と地域との連携はどのような推進をしているのか具体的に示すべきと思われる。 タブレットの持ち帰りには明確なルールと毀損した場合の補償基準を明確にするべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	学力向上推進事業 の効率的活用	○ 全国学力調査、県学力調査の分析結果をもとに、各学校の学力向上担当者を中心に、学校の課題を分析し、朝のモジュール活動、昼のドリル活動の取組を通して基礎学力の充実を図った。 ○ 小学校では、算数の補助教材を配布した。中学校では、年間を通して実力テストを実施し、京築地区、県全体との比較を行い、課題を明らかにして学力の定着及び指導の見直しへつなげた。 ○ 県の学力向上クラスターを要請し、黒田小・豊津小・犀川小で対象となる若年教員に研修を行い、授業力を向上させた。 ○ 外国語指導の充実のため、英語講師派遣事業、K G G 訪問、英語スピーチ大会といった事業に取り組み、児童生徒が自ら考え、気持ちを伝える力の育成を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 家庭と連携し、家庭学習の定着を図る。 ○ 若年教員の増加に伴い、指導の基礎・基本を身につけるための研修を継続的に行う。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	多様な人材や民間の教育施設等の人的・物的教育資源を活用した積極的な取組を評価したい。なお、ベテラン教員から若年層教員への指導技術の伝承にとどまらず、若年層教員が得意とする I C T 活用等をベテラン教員が学ぶ等の双方向性の資質向上が促される職員室風土の醸成を促す取組を期待する。
	少人数学級等、多様な教育活動の推進	○ 児童生徒に対するきめ細やかな指導を実施するために以下の町雇用教員を配置した。 ・ 35 人以下学級実施 (中学校 4 名) ・ 複式解消 (小学校 2 名) ・ 5 名以上特学対応 (小学校 4 名/中学校 3 名) ・ 通級指導配慮員 (小中学校共通 3 名)	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		《課題・今後の方向性》 ○引き続き町雇用教員を配置するとともに、指導方法工夫改善教員（小学校専科指導）の配置を要望していく。					
	I C T教育の推進	○ I C T活用計画に基づき、小中学校に電子黒板を整備した。 ○ 小学校へ国語・社会・理科、中学校に国語・数学・社会・理科・英語の指導者用デジタル教科書を購入し、授業での活用を図った。 ○ 児童生徒1人1台端末の管理のために I C T支援員を配置し、授業における I C T活用支援ため、業務委託を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 各校の授業における I C T機器活用の平準化を図るため、教員研修等を実施していく。 ○ ネットワークアセスメント等、 I C T環境整備を進めていく。	A (A)	A (A)	B (B)	B (A)	I C Tを活用した授業内容については、教員の I C Tに対する理解や活用に格差があると思われるので、研修等を充実させ支援するべきである。 I C T教育の格差が出ないよう、教職員の能力向上と活用に期待する。 I C T教育を推進する上での環境整備や教材等の整備が充実していることが高く評価できる。なお、 I C T環境や教材整備と併せて教職員の I C T機器の活用に関する資質・能力の向上を含めた支援の充実を期待する。
豊かな心の育成	道徳の授業改善	○ 福岡県から道徳教育推進事業の委託を受け、道徳教育の課題に応じた市町村による実践的研究発表を犀川小、豊津中で行った。 ○ 福岡県道徳教育地域指導者研修会等に教職員を積極的に推薦し、派遣することにより小中学校の道徳教育の充実を図った。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 教育活動全体で行う道徳教育を推進するために、教育指導計画書に「全体計画」と「年間指導計画」を作成・記載し、実践した。 《課題・今後の方向性》 ○ みやこ町若年教員研修で道徳の授業改善に取り組む。 ○ 道徳教育地域指導者教員を中心に取組の継続・充実を図る。					
	生徒指導体制の確立	○ 毎月の問題行動（不登校やいじめ等）の発件数や内容を把握し、各学校への個別指導や校長会等での状況報告・指導を行うことで、各学校での生徒指導体制の充実を図った。 ○ スクールソーシャルワーカー1名や県スクールカウンセラーを独自に活用できるよう町予算を確保するなど、学校と連携して児童生徒・保護者の教育相談、教師の相談支援に活用した。 ○ 相談電話一覧のリーフレットや行橋市適応指導教室への入室案内、県立大学のサポートセンター案内等を配布し、不登校児童生徒の居場所づくりを図った。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	不登校対策に対して、行政や大学、多様な人材を活用した支援を行っていることが評価できる。今後も引き続き、生徒指導上の重要課題である不登校対策やいじめ防止に向けた取組の充実を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ みやこ町要保護児童対策地域協議会での情報交換会議に、年6回職員・担当指導主事・教育相談員・スクールソーシャルワーカーが連携して参加した。 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も学校の状況把握に努め、指導体制の充実を図るとともに、スクールソーシャルワーカー等専門職の相談体制の充実を図る。 ○ 引き続き関係機関や相談電話、相談機関、フリースクール等の情報提供により学校以外での相談や居場所づくりに努める。					
	豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進	○ 学校図書司書3名を雇用し、学校の図書担当教員と連携して学校図書館の充実を推進した。 ○ 読書リーダーとなる児童生徒を養成し、学校内の読書環境の充実と小中学生期における読書活動を推進した。 ・読書リーダー養成講座 実施日：8月7, 8日 参加者：小学校9名、中学校8名 《課題・今後の方向性》 ○ 取組の継続と充実を図る。	A (A)	A (A)	B (B)	A (B)	町立図書館との連携を十分にするためにも生涯学習課所管の方がよいと思われる。 図書館と連携し、資料・教材を有意義に活用してほしい。
	人権が尊重される学校づくり	○ 学校の教育活動全体を通して実践するために、人権教育の「全体計画」「年間指導計画」を作成・実践して充実を図った。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○「学校いじめ防止基本方針」を作成し、学校教育のアンケートを各学期1回以上実施し、教育相談や学級指導等と連動して一人一人を大切にする学校風土・学級風土の醸成を図った。 《課題・今後の方向性》 ○取組の継続と充実した実践を図る。					
健やかな体の育成	体力向上に向けた教育活動の推進	○小学生の体力・運動能力は全国平均以上、中学生は運動技能で男女ともが全国平均を下回っており、課題を把握し重点的に取組んだ。 ○県の体力アップ事業であるスポコン広場への参加を推奨しており、久保小では大縄とびに挑戦し、児童の団結力及び体力の向上が見られた。 《課題・今後の方向性》 ○体力アップシート等を活用した体力向上の取組の継続・充実を図る。	A (B)	B (B)	B (B)	B (B)	どのような課題を把握し、どのような取組みをおこなったのかを具体的に示すべきと思われる。 中学校において昨年度は女子の結果が平均を下回っていたが本年度男女ともに平均を下回った原因を分析して、今後の手立てを検討していただきたい。 久保小以外での取組みも示すべきと思われる。
	安全・安心な学校給食の提供	○調理員へは年3回、学校の配膳担当者へは年度当初1回、衛生研修を実施した。 ○マニュアルに沿った作業を行い、随時見直しをすることで、衛生管理の徹底と調理技術の向上を図った。 ○温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられるように二重食缶を使用して配食した。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 地場産農作物の利用促進を図るために関係機関との連携を深め、学校給食小委員会で「生育状況」や「出荷時期」の情報交換を行い「みやこ町産野菜」の使用に努めた。 ○ 毎月19日は「食育の日」にちなみ、地場産農産物を取り入れた学校給食を提供するとともに、「地場産物だより」を発行し、各家庭に配布した。また、毎日、給食の写真とその日の地場産物をフェイスブックで紹介した。 ○ 「給食カレンダー」を毎週発行し、毎日の献立内容について知らせたいポイントを掲載することで食育の推進を図った。 ○ 栄養教諭が小学校を訪問し、「バランスのよい食べ方」をテーマに食べ物は大切な働きがあることについて指導し、嫌いな物も工夫して食べるように意識付けを行った。 ○ 生産者の努力や工夫が児童生徒に伝わるよう圃場で動画撮影を行い、「食育の日」の給食時間に各学校で配信した。 ○ 小・中学校の校長代表、PTA代表、学校給食担当教諭、学校給食センター職員で構成する献立委員会を年10回開催し、年間献立計画に基づき作成した献立について協議した。 ○ 小学校に入学する新1年生の保護者に学校給食の目的や、使用食材等を記載したおたよりを配布し、家庭への周知を図った。					

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 「みやこ町食物アレルギー対応マニュアル」を活用して、食物アレルギーをもつ児童生徒が、「安心・安全」な学校生活を送ることができるように努めた。 ○ 学校との情報交換会を開催し、食物アレルギーをもつ児童生徒の状況等について情報共有することで、食物アレルギー事故の防止に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も衛生面に注意を払い、おいしい学校給食を提供していく。 ○ 食物アレルギーをもつ児童生徒へ適切な対応が図られるように、学校との連携や情報共有を図っていく必要がある。 ○ 栄養教諭による学校訪問を計画的に実施するとともに、引き続き給食の内容等が適切であるか検討していく。					S N S等を活用した地場産農作物の利用促進や食育指導の充実が図られている。特に、給食の無償化についての行政としての取組と併せて食料品価格が高騰している中、給食の質を確保に努めていることを高く評価したい。
特別支援教育の推進	児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進	○ 児童生徒の実態や状況に応じた特別支援学級の設置による特別支援教育の充実を図った。 ○ 通常の学級に在籍する、特別に支援を要する児童生徒の指導のための「通級による指導」を行うにあたり、町雇用の合理的配慮協力員を3名雇い、巡回型で実施した。 ○ 適正な就学に向けた、きめ細やかな教育相談を行うために、就学前に相談を行った。 ○ 特別支援教育に係る研修会を教務担当に年1回、通級担当教員には年1回実施した。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		また、年間を通じ通級担当教員と教育委員会事務局の協議会を実施し、指導の充実を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 児童生徒の教育相談の充実と、就学の適正化につなげるための、家庭と学校、教育委員会事務局が情報共有できるシステム作りが必要である。					
	通級指導の充実	○ 犀川小・黒田小を拠点校として、町雇用の教員を3名採用し巡回による指導を実施し、児童生徒の移動時間や保護者の負担軽減を図りながら指導の充実に努めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 巡回指導を継続し、児童生徒の個性に応じた指導の更なる充実を図る。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	指導員は3名巡回型で対応が十分なのかを検証し、担任の負担軽減に努めるべきと思われる。 町の予算を効果的に活用して人材確保を行ったり、保護者のニーズに応じたりしながら特別支援教育の充実に努めていることを評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
信頼される学校づくり	地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進	○ 安全見守り隊51名 ○ 町独自の不祥事防止の取組やアンケートを通して、教職員のコンプライアンス意識を醸成し、保護者や地域への対応の充実を図った。 ○ 管理職だけでなく、教員においても学校の教育活動等の説明責任を適切に果たし、学校通信等による情報発信や口頭による説明を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 学校と地域が情報共有できる仕組みを今後も検討していく。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	今後も地域とともに教育活動の充実に努めていくことを行政が学校を支えながら推進して行くことを期待する。
	家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進	○ コミュニティスクールの導入 犀川小・中、伊良原小中は令和5年度に導入済 令和6年度に豊津小・中に導入 《課題・今後の方向性》 ○ 令和7年度に勝山地区小・中学校の導入を進める。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	活動に必要な予算措置やコーディネーターの配置は必須であると考える。

主要施策 ②子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
学校施設の効率 的な維持保全	校舎の適切な維持 補修	○ 長寿命化計画に沿って、老朽化した校舎等を適切に修繕、改修した。 屋上改修工事（豊津中） 外壁改修工事（黒田小、久保小） 空調設置工事（諫山小、勝山中、豊津中） 学校修繕件数 66件 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も老朽化が進むことが想定されるので、適切な修繕を行う。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	
統廃合を含む学 校再編の推進	学校の再編整備	○ 豊津地区学校再編整備事業に伴う旧校舎解体工事を施工し、駐車場の一部を整備した。 《課題・今後の方向性》 ○ 旧校舎解体工事の完了後に、関連する外構工事を施工する。また、町立中学校及び勝山地区小学校の再編整備にあたり、候補地の選定作業等を行い統廃合を推進する。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	候補地の選定は様々な事情を十分に配慮しつつ、速やかに決定することを期待する。
保護者の経済的 負担の軽減	生活困窮支援事業	○ 就学が困難であると認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助をする制度として就学援助を実施した。 認定者 小学校 209名 中学校 126名 《課題・今後の方向性》 ○ ウェブ申請を導入し、より申請しやすい体制づくりを進める。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	ウェブ申請の導入による申請環境の充実を図る積極的な取組を評価したい。引き続き保護者の経済的負担を軽減し、子どもの学びを支える取組の充実を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	奨学金貸付事業	○ 経済的な理由により、高校又は大学等への修学が困難な生徒に対して、修学費用として奨学資金の貸付けを実施した。 修学奨励貸付金 2 名（新規 1 名、継続 1 名） るるか奨学資金 4 名（新規 1 名、継続 3 名） 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も継続して貸付けを行う。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

主要施策 ③家庭の教育力の向上を図ります

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり	家庭教育向上講習の実施	○ 家庭教育力向上を目的とした「家庭教育講演会」や「親子で学ぶ規範育成講演会」を実施し、共通のルールや約束事についての知識を深めた。 《課題・今後の方向性》 ○ 継続して実施することで、保護者の主体的な取組を促したい。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	講演会の実施と併せて保護者の意識改革を促す手立ての検討が必要である。
豊かな感性をもった子どもの育成を図る体験教室の実施	保護者と連携した「鍛ほめプロジェクト」の実施	○ 人格的資質の育成を図るため、全校で取組内容を決定し、保護者と連携して実践する「鍛えよう！ほめようプロジェクト」に取組み、自尊感情や学ぶ意欲、人格的資質が高まった。 《課題・今後の方向性》 ○ 取組の継続と確実な実践を図る。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	自尊心や学ぶ意欲を高める取組みとはどういったものか、又、評価基準を明確にすべきであると思われる。

2 社会教育の充実

○施策の方針

これまで行ってきた学習機会の提供を継続していくため、公民館活動や広報誌、ホームページなどを通じた生涯学習に関する情報提供の充実を図るとともに、各地域の優れた技術や経験をもった人材活用や社会教育団体などの活動を支援します。

主要施策 ①生涯学習環境の整備を進めます

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
情報提供の充実 とライフステージに応じた学習 機会の提供	高齢者大学、女性 学級、各種講座を 開催	○ 町広報誌・防災行政無線・ホームページ等を活用し、高齢者大学、女性学級、文化健康講座等の情報提供を行った。 ○ 高齢者大学を次の4地区で開催した。 ・勝山たちばな大学 年11回開催、申込者38名 対前年度7名減 ・さいがわ学びの杜 年11回開催、申込者99名 対前年度10名減 ・伊良原地区ふれあい大学 年9回開催、申込者35名 対前年度2名増 ・豊津平成学級 年10回開催、申込者19名 対前年度3名減 ○ 女性学級を次の3地区で開催した。 ・勝山女性学級 年10回開催、申込者7名 対前年度16名減	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	受講者が減少する中で、どのように講座内容の充実を図ったのかを明確にすべきである。 対象者を固定せず、広く募集していることを評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		・犀川女性学級 年10回開催、申込者29名 対前年度8名減 ・豊津女性学級 年10回開催、申込者19名 対前年度2名減 《課題・今後の方向性》 ○ 多くの方が参加できるよう、広報誌やホームページ・チラシの配布方法等の工夫に努める。 ○ 申込者数が年々減少傾向にあるため、勝山地区の高齢者大学と女性学級の統合に向けて協議を始めた。 ○ 社会教育指導員や地域活動指導員を中心に講座内容の充実を図り、多くの方が参加したくなるように、引き続き、魅力のある学級運営に努める。					
公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参加の推進	公民館活動の活性化を促進	○ 公民館活動の事業紹介や展示 公民館活動を紹介し、広く参加者を募るため、講座や大学などの開催状況がわかる展示を行い、参加を促した。 《課題・今後の方向性》 ○ イベントに捕らわれずに公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参画を促せる方策を検討する。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	社会教育主事の配置や講座の工夫をおこなうべきである。講座内容がマンネリ化しない又、開催内容がわかるように周知方法を工夫して参加促進につなげてほしい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
地域人材を活用した学習内容の充実	地域の人材の掘り起こしを進める	○ アンビシャス広場の推進 地元ボランティアが中心となって行っている諫山校区アンビシャス広場の活動に対して、補助金の交付及び人的支援を行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 地域ボランティア等指導者不足が見受けられるため、引き続き、事業の必要性を理解する人材の育成が必要である。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	人材育成取組について具体的に示すべきである。
文化施設を活用した学習活動の推進	健康で文化的な生活をするための講座を開催	○ 文化的な知る楽しさ、学ぶ喜びを感じる場を提供し、活発な公民館活動に繋げている。福祉・生きがいづくり・ボランティアに関することや公民館を幅広い年齢層に利用してもらうための講座などを行った。 《課題・今後の方向性》 ○ 講座をきっかけに自主サークルによる活動につながるよう推進していく。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	自主サークルの活動につながるようする支援体制が必要である。
	博物館友の会運営事業	○ 博物館友の会員の学習・郷土への理解と認識を高める活動に対し、人的支援等を行った。 令和6年度会員数 104名 対前年度比37名減 三重塔すす払い、研修会(2回)、三重塔まつりへの出店参加	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	自主運営は簡単にはできないので、しっかりとした支援が必要である。 職員のマンパワーが限られているので、ボランティア連携と行政支援の充実を望む。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	博物館各種文化・人材育成事業	○ ガイドボランティアが行う文化財ガイドや清掃・修理などの活動に物資・人的支援を行った。 令和6年度会員数 32名 前年度比1名減 バスツアー等のガイド、永沼家住宅袖塀葺き替え、国分寺三重塔すす払い、博物館イベント支援した。 《課題・今後の方向性》 ○ 友の会及びボランティア会員の高齢化、固定化が進んでいるため、新規会員（若年層等）確保を目指す。 また、ボランティア活動については、自主運営を目指していく。					

主要施策 ②図書館の利用を促進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
多様な資料の提供と快適な読書環境の整備	読書環境整備事業	○ 電子図書館の導入により、読書環境の充実を図ることができた。 ・ 令和6年度末コンテンツ数 818点 ・ 令和6年度電子書籍貸出数 1,581点 ○ 本館・分室の役割を見据えた資料収集を行い、蔵書構成や内容については、評価、利用状況等を参考にして除籍、資料の更新を行った。 ○ 予約・リクエストの受付数は減少したが、ホームページやフェイスブックを活用し、事業の周知に努めた。 ・ 令和6年度 4,681件 (令和5年度 5,162件) 《課題・今後の方向性》 多様な資料の提供と快適な読書環境の整備を推進するとともに、関係課や関係機関と連携を取りながら、各地域住民へのサービス提供に努める。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	広域な町域のみやこ町において、電子書籍だけでは対応が難しい。移動図書館の活用や宅配貸出し等、図書館の利用促進の図り方を検討するべきである。
広報活動の充実と各種行事の開催	読書週間関連事業	○ 読書週間関連事業 ・ 講座「スマホ写真撮影講座」 参加者20名 ・ 読書エッセイ募集 応募者12名 ・ 図書館deコンサート 育徳館中学高校管弦学部の実ミニコンサート 実施回数 3回 聴衆186名	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	前年度の「美味しいコーヒーの淹れ方」に続き、読書に対する興味・関心が高くない方も参加したくなるような魅力的な講座を設定し、読書人口の拡大に努めていることを高く評価したい。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ブックリサイクル 除籍した資料を提供する常設コーナーを設置したほか、公共的機関等への譲渡会を実施した。 ○テーマ展示 季節やその時期の関心事をテーマに資料展示を実施した。 《課題・今後の方向性》 インターネットでのサービスを積極的に周知するとともに、レファレンス等における新たなサービスについても検討する。 引き続き、図書館に足を運ぶきっかけとなるイベントを企画、実施する。					
関係機関と連携した子どもの読書活動の推進	ブックスタート事業、子ども向けイベント事業	○第3次みやこ町子ども読書活動推進計画に基づき、関係機関や団体の連携・協力等、子どもの読書環境を整備した。 ○4か月、1歳半の赤ちゃんとその保護者に読み聞かせ体験行い、絵本を配付した。 配布者 150名 ○ブックスタートフォローアップ事業 「いっしょにあそぼう！わらべうた」 実施回数 2回 参加者 57名	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	少ない人材と予算の中での事業実施は評価できる。今後は学校図書館との連携も考慮すべきと考える。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		○ 子ども向けイベントの実施 ・おはなし会 年齢別に読書ボランティアや図書館職員によるおはなし会を実施した。 参加者 120名（前年度 155名） ・子ども読書まつり 特別展示「のりものあつまれ」、特別おはなし会「のりものおはなしかい」、本を読んでクイズに答えよう、ボードゲームデー ・夏休みチャレンジ教室 「わくわく実験理科講座」参加者16名 「めざせ！おかいものマスター」参加者10名 「ボードゲームで遊ぼう」参加者7名 ・園児対象図書館見学会 年長児対象の館内見学とおはなし会 開催回数8回、参加者122名 ・移動図書館 小学校 2,556冊（前年度3,132冊） 保育所等 7,957冊（前年度8,094冊） 《課題・今後の方向性》 ○ 関係課や関連団体と連携を取りながら、子どもの読書活動を支援する。 特に読書離れが顕著な中高生の読書活動の推進に努める。 ○ 親子が利用しやすい環境づくりと育児関連書や乳幼児向け絵本の充実などによる図書館の利用促進を図る。					読書習慣の定着にとどまらない、家庭の教育力の向上に繋がる取組となることを期待する。

主要施策 ③図書館を活用した地域文化活動を促進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
人材の育成及び確保	読書ボランティア養成事業	○ 読書ボランティア養成事業 ・ 読書ボランティア養成講座（入門）2回 参加者 17名 ・ 読書ボランティア養成講座（専門）1回 参加者 19名 ○ 読書ボランティア派遣事業 ・ 学校、保育所、幼稚園、放課後児童クラブ等へ、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行う読書ボランティアを派遣した。 《課題・今後の方向性》 読書ボランティア活動を支援するとともに、新たな人材の育成に努める。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	県立図書館等と連携して人材育成に努めてほしい。活動支援は司書の資質が大きくかわるので、支援体制構築のためにも正規職員の司書が必要と思われる。
地域住民による文化活動の推進	博物館との連携事業	○ 出張博物館 博物館展示品の一部を展示 ○ 博物館イベントに関連した特集コーナー 企画展の内容に合わせた資料展示 ○ ギャラリーの外部利用 2件 《課題・今後の方向性》 博物館と連動した企画を実施するなど連携を図る。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	連携事業の実施を評価したい。

主要施策 ④歴史民俗博物館の事業振興と機能強化を図ります

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催	博物館運営事業	○ 施設設備の老朽化等により修繕等を実施した。 ・DLPプロジェクター購入 ・デジタルビデオプレーヤー取替修理外2件	A (A)	B (A)	B (B)	A (A)	専門職の育成は容易ではないので、担当職員の定年にあわせて計画的に職員を確保するべきと思われる。 老朽化した施設の修繕にとどまらず、新規事業を実施するなど博物館事業の積極的な取組を評価したい。
	博物館企画展事業	○ 企画展の実施 ・昭和の暮らしと風景展 (7/23～9/1) ・生誕140年小宮豊隆展 (10/20～12/22)					
	所縁館連携・支援事業	○ 漱石山房記念館（東京都）と連携し、「生誕140年小宮豊隆展」を実施した。 《課題・今後の方向性》 ○ 老朽化や経年劣化による故障や修理が増えてくると見込まれるため計画的に修繕等を実施していく。 ○ 住民ニーズや時代の流れに合わせ常設展示の入替や企画展を今後も開催していく。また、他館との連携を強化し、合同企画展の実施を目指していく。					
歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信	館蔵資料等特別利用対応事業	○ 博物館収蔵資料を他市町村博物館・資料館や大学、研究機関、報道機関などに貸出や閲覧の特別利用を実施した。 特別利用件数 81件 前年度比42件増	A (A)	B (A)	B (B)	B (B)	博物館法の改正により、資料のデジタル化は急務であり、計画的な取組を求める。 数多くの文化遺産に恵まれたみやこ町の魅力発信の継続を望む。
	事業広報周知事業	○ ホームページや博物館だよりにより情報発信を行った。 ・博物館だより（12回発行） ・HPアクセス数 332,969回 前年度比 154,668増					

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		≪課題・今後の方向性≫ ○ 収蔵資料や文化財包蔵地情報等を含めた情報整理、デジタル化を行い、情報検索システムの導入を目指して環境整備等を行っていく。					

3 スポーツの推進

○施策の方針

スポーツ・レクリエーション活動は、住民相互の交流を生む機会として重要です。これまで行ってきたスポーツフェスタなどのイベントを今後も継続し、誰でもいつでも気軽に参加できるスポーツレクリエーション活動を推進します。また、スポーツレクリエーション活動の活性化を図るために指導者の資質向上に向けた研修会に取り組みむとともに、限られた施設を継続して利用できるように適正な管理を行います。

主要施策 ①住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進	海洋性スポーツの普及	○ 町広報誌等で海洋性レクリエーション体験教室の参加者と、海洋性クラブのメンバーを募集し、活動を実施した。 レクリエーション参加者数：35名 クラブ参加者数：10名（活動日数：9日） 《課題・今後の方向性》 参加者の安全を第一に考え、指導者のスキルアップを図ることが不可欠であり、講習会や資格取得支援を通じて、専門知識と指導力の向上を目指す。これにより、参加者が安心できる環境を整備する。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	町の地理的特性を生かした取組として評価したい。
	スポーツ推進委員によるスポーツの普及・推進	○ スポーツ推進委員が中心となり、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした体力測定を実施した。また、高齢者大学やニュースポーツ教室に講師派遣することで、ニュースポーツへの認知度と理解が深まり、幅広い世代間の交流が促進された。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		《課題・今後の方向性》 ○ スポーツ推進委員は近年、担い手の高齢化が課題となっており、若年層の積極的な加入を促進する必要がある。若年層の加入により、若者ならではの新たな視点やエネルギーを活動に取り入れることが可能となり、地域住民へのより幅広いスポーツ振興活動が期待される。					
	スポーツフェスタの充実	○ 地域住民の健康増進、スポーツへの関心向上、および世代を超えた交流機会の創出を目的とした、誰もが参加できるスポーツフェスタを開催した。 参加者数：1, 432名 《課題・今後の方向性》 ○ スポーツフェスタは、町民に広く認知されている。今後は、より多くの町民に参加してもらうため、多様な競技種目や幅広い年齢層を対象としたプログラムの実施が必要であり、参加者のニーズに応えるため、プログラム内容をさらに多様化していく必要がある。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	スポーツ推進員を活用し、プログラムの充実を図るための普及活動をおこなうべきと思われる。
	アダプテッド・スポーツの取組	○ スポーツ推進員が中心となり、障がい者や高齢者向けのスポーツ指導者講習会等に引き続き取り組み、指導者の養成を進めている。スポーツフェスタでは、アダプテッドスポーツの体験会も継続して実施している。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	障がい者団体との連携をおこなうべきと思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
	※アダプテッド・スポーツ (adapted sports)… 障がい者や 高齢者、 子ども、女性等が参 加できるように修正さ れた、あるいは新たに 作られた運動やスポー ツ・レクリエーション 全般のこと。	《課題・今後の方向性》 ○ 障がい者向けスポーツメニューの対応力強化と、長期的な視点に立った普及振興体制の構築に努める。 ○ スポーツ推進委員やスポネットTOYOTSUと連携し、障がいのある方を対象としたスポーツ教室を開催する。さらに、参加者の声を取り入れたプログラム作りや、指導者育成も積極的に行い、地域全体で障がい者スポーツを支える体制を構築する。					指導者の育成と併せて今後も積極的な取組を期待する。
	ホームページの管 理・運営	○ 施設管理状況の変更やイベントの案内、結果等、情報を随時提供している。 《課題・今後の方向性》 ○ 今後も迅速かつ的確な情報提供に努める。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	
健康づくり、生 きがいくりに 向けての運動機 会の提供	スポーツ教室、大 会の企画運営	○ さわやかマラソン大会（333名参加）、町民ウォーク（144名参加）を実施し、競技スポーツ以外のスポーツ機会を提供した。 ○ 町立保育所の年長・年中園児を対象としたリズム体操・水泳教室を実施した。 開催回数：24回 参加人数：46名 ○ B&G杯ソフトバレーボール大会、B&G杯剣道大会を実施した。 ○ スポネットTOYOTSUでは、ジュニアプログラムを年間35回開催した。また、一般やシニア向けの体力アップ運動教室を年間46回、夏季シーズン中には水中運動教室を12回実施し、地域住民の健康増進に貢献した。	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	スポネットTOYOTSUの事業内容の周知方法を工夫し、周辺住民に留まらず、広く町民が参加できる事を期待する。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		≪課題・今後の方向性≫ スポネットTOYOTSUや体育協会、スポーツ推進委員等の関係機関と連携し、より多くの町民が多種多様なスポーツやレクリエーションに参加できる機会を提供していく。					

主要施策 ②競技スポーツを振興します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
競技スポーツの振興	体育協会を中心としたチャンピオンシップスポーツの振興	○ 体育協会主催による、陸上、卓球、バレーボール、軟式野球、ソフトボール、水泳、ソフトバレーボール、サッカー、空手、剣道、バドミントン等のチャンピオンシップスポーツ活動を大会助成や施設使用料の減免等により支援した。 ○ 京都郡大会や県民スポーツ大会などに町代表選手の派遣を行った。 ○ みやこ町さわやかマラソン大会兼京都郡ロードレース大会を実施した。 出場者数：333名 ○ 筑豊地区で開催された福岡県民スポーツ大会に参加した。 出場者数：158名（京都郡単位） 《課題・今後の方向性》 ○ 引き続き、体育協会の組織体制を強化・活性化を図るとともに、チャンピオンシップスポーツへの支援体制について協議を進める。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	老若男女を問わず、夢や希望を育む事業としての充実と発展を期待する。

主要施策 ③指導者の育成・発掘を行います

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
スポーツ・レクリエーション指導者の育成	センターインストラクター養成事業	○ 指導者養成研修へ参加してインストラクターを養成する。 令和6年度は対象者がいなかったため、研修へは不参加 《課題・今後の方向性》 ○ 海洋性スポーツ・レクリエーションの指導者養成は、今後も重要な課題である。計画的にB&G財団主催の指導者養成研修に参加し、より安全な指導ができるよう指導者の育成を計画的に進めていく。	A (A)	B (B)	C (C)	B (B)	
スポーツリーダーバンクの構築と活用	スポーツリーダー育成事業	○ スポーツ推進委員やスポネットTOYOTSUを中心に指導者講習会等に参加し、指導者の養成に取り組むことで、各種団体からの依頼に対応した。 《課題・今後の方向性》 ○ スポーツリーダーとなる人材の育成と組織構築が課題である。当面は、現指導者への指導者講習会などへの参加を促し、指導力の強化を図ります。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	中学校部活動の地域移行を考慮した人材育成が必要と思われる。

主要施策 ④既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
複合的な活用を考えたスポーツ施設の活用	スポーツ施設の有効活用	○ 豊津運動公園には、第4種陸上競技場、体育館、プール、トレーニングセンターなどがあり、さわやかマラソン大会や、隣接する菖蒲園の祭り等のイベントで利用されている。また、公園の樹木を伐採し、見通しを改善することで、利用者がウォーキングなどをしやすい環境を整備した。 ○ 犀川体育館や所管する他の体育施設駐車場は、産業祭や夏祭りなど、町が開催するイベントに利用した。また、令和6年度から勝山体育館で「ふくしまつり」と「子育て支援センターフェスタ」を同日開催した。 ○ 犀川運動公園の野球場と多目的グラウンドは、少年サッカーやソフトボールの京築・近郊大会の主会場として利用した。 《課題・今後の方向性》 ○ 関係各課・機関と協議し、複合施設の有効活用に努める。 陸上競技場は令和7年1月で第4種公認の期限を迎えた。令和7年度に改修工事を行い、第4種Ⅰとして新規に公認申請を行う。今後、公認陸上競技場としてのあり方や運営方針、共同運営等について、協議検討していく必要がある。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G財団）の利用促進	B&G施設の利用促進	○ 犀川B&G艇庫（本庄池）でのカヌー・ヨット教室を実施した。 ○ 豊津B&G体育館では、学校行事・部活動等、各種団体（体育協会、子ども会、老人会など）への使用料減免措置を行った。（利用者36,516名：対前年度4,796名増） 《課題・今後の方向性》 ○ 体育館とプール等を計画的に保全し、利用者の増加を目指す。今後は施設の維持・改善を進め、幅広い世代に利用してもらえるよう努める。	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	前年度に引き続き利用者数が大きく伸びていることを評価したい。今後も学校や各種団体との連携による事業推進の継続を望む。

4 地域文化の継承と振興を図る

○施策の方針

文化財を町の重要な資源として保存・継承するために、必要な整備や文化財保持・継承団体への支援を行うとともに、老朽化した施設・設備の再整備を図ります。また、文化協会の体制強化を図り自主運営に向けた取り組みを支援するとともに、各文化団体の自主性・独立性を推進するための必要な措置・支援を行います。

主要施策 ①町内の文化財の保存と活用を推進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
歴史公園の有効活用	歴史公園等管理・活用事業	○ 施設等の老朽化等の伴う修繕を実施した。 ・ 豊前国分寺跡公園石垣太鼓橋修繕外3件 ・ 甲塚方墳支障木伐採外1件 ○ 豊前国分寺跡公園において三重塔まつりを実施するなど公園の活用を図った。 《課題・今後の方向性》 ○ 今後、修繕等が増加してくることが想定されるため、補助事業等を活用し、大規模修理等にも対応できるように計画を策定していく。	A (A)	A (B)	B (B)	B (B)	数多くの文化遺産に恵まれた町の魅力発信に繋がる取組の継続と拡大を望む。
国、県町指定文化財の普及啓発	指定文化財保存管理・活用事業	○ 災害復旧工事や老朽化に伴う施設、設備等の修繕を実施した。 ・ 永沼家住宅災害復旧工事 ・ 永沼家住宅放水銃給水管修理外4件 ○ 地元住民団体と協力を得て、文化財の管理活用を図った。 ・ 永沼家住宅保存管理公開活用 ・ 千女房のヤマザクラ環境整備 ・ 生立八幡宮山笠公開活用	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	保存の推進は示されているが、活用実績が見えない。訪問者に対するガイド事業や博物館活動を通じた取組が必要と思われる。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
		《課題・今後の方向性》 ○ 今後、修繕等が増加してくることが想定されるため、補助事業等を活用し、大規模修理等にも対応できるように計画を策定していく。また、地元住民団体の高齢化してきていることから今後の管理活用方法について団体とも協議し、検討をしていく。					

主要施策 ②遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
遺跡保護のための調査、記録	埋蔵文化財開発事前審査・調査事業 文化財記録保存調査報告書刊行事業	○ 各種開発事業等に伴う調査立会調整作業等を行った。 包蔵地照会件数 113件 前年度比8件増 工事立会調査 1件 前年度比0件 本発掘調査(整理調査)2件 前年度比1件減 ○ 発掘調査の成果を整理し、調査報告書を作成刊行した。 ・豊前国跡政庁地区 ・清池神社南古墳群2次3次調査 《課題・今後の方向性》 ○ 包蔵地情報は、紙ベースの地図による検索等を行っているため、調査報告書を含めデジタル化により効率性を高め、HP等で公開できないか検討を進めていく。	A (A)	B (A)	A (A)	A (A)	
文化財の適切な整備	文化財保存活用・修理事業	○ 小・中学生や高校生、郷土史団体等に歴史文化等に関する学習支援を行うなど地域歴史学習における文化財の活用を図った。 学習支援件数 57件 前年度比28件減 ○ 災害復旧工事や修理、周辺整備を行った。 ・永沼家住宅災害復旧工事 ・甲塚方墳支障木伐採 ・豊前国分寺跡公園石垣太鼓橋修繕外8件 《課題・今後の方向性》 ○ 学習支援については、学芸員が中心となって行っているが、今後はガイドボランティアを中心とした支援活動が行えるよう検討し、進めていく。 また、指定文化財については、補助金等を活用し、「文化財保存活用計画」や個別の管理計画を策定し、周辺も含め再整備を目指す。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	町内には極めて重要な文化財が多く所在しており、史跡の管理計画を策定し整備をおこなうべきである。特に国指定文化財「橘塚古墳」がある黒田小学校は学校再編で候補地とせずに史跡公園として活用することを提案します。

主要施策 ③文化団体などの活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します

※令和6年度の評価を下段（ ）で記入しています。

主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
文化財の保持・ 継承団体の支援	文化財保護団体等 支援事業	○ 文化財保護団体等に補助金等の支援を行った。 ・生立八幡宮山笠保存会 ・黒田楽保存会 ・みやこ町郷土史研究会 ・永沼家住宅保存協力会 ・千女房桜を守る会 《課題・今後の方向性》 ○ 補助金等の支援は、今後も継続して行っていくが、社会情勢の変化や高齢化により保存会の存続が危ぶまれてきているため、行事等の映像等による記録保存等を行うとともに新たな会員加入促進に向け各団体と協議検討を行う。	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	コロナ禍からの影響を踏まえ、地域伝統芸能の継承に支援をするべきと思われる。文化財保護への積極的な取組を評価したい。
文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取組みの支援	文化芸術振興事業	○ 文化振興団体に対し、補助金や人的支援を実施した。 ・みやこ町文化協会 ○ 伝統文化等を活用した文化事業を実施した。 ・ふるさと遺産フェスタ ・三重塔まつり 《課題・今後の方向性》 ○ 文化協会への支援は、今後も継続していくが、会員の高齢化、固定化並びに会員減少が課題になっている。新たな会員の増加を目指すとともに自主的な運営についても協会と協議検討を進めていく。	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	サン・グレートみやこを住民のクオリティオブライフの実現のために活用をはかるべきと思われる。他の関連事業等との連携による取組の充実を期待する。

令和7年度 みやこ町教育委員会自己点検・評価（令和6年度対象）に対する外部評価委員会の所見

外部評価委員長 花島 秀樹（福岡教育大学教職大学院 特任教授）
委員 栗焼 憲児（教育行政経験者）
委員 長尾 優美子（教育行政経験者）

みやこ町教育委員会が令和6年度に取り組んだ活動について自己点検・評価をおこなったが、その点検・評価に対して外部評価委員会は3回に亘る委員会において慎重に審議した結果、以下の所見を述べる。

1. 外部評価の意義、並びにみやこ町教育委員会点検・評価の方法

『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正（平成20年4月施行）により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、情報公開の一環として広く市町村住民に公開することにより、住民に対して説明責任（アカウンタビリティ）を果たすことが求められることとなった。

みやこ町における自己点検・評価及び外部評価は今年で13年目を迎えた。今年度の点検・評価及び外部評価は、基本的には前年度までの内容及び方法をほぼ踏襲して、令和6年度の教育委員会活動を、Ⅰ. 教育委員会の活動、Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務、Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務の3つに区分し、それぞれについて教育委員会の活動の進捗・達成状況等を点検・評価している。その中で、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に係る主要施策・主要事業、並びに各活動については、「みやこ町第3次総合計画(2021～2025年)の基本計画に示された主要施策・主要事業に対応し、「1 子どもの教育環境の充実」、「2 社会教育の充実」、「3 スポーツの推進」、「4 地域文化の継承と振興」の4つの施策から構成され、各々に主要事業が設定されている。

以上の各施策並びに事業の達成に向けて実施された活動（取組）に対して点検・評価を実施している。

各評価項目（取組）に対する点検・評価並びに外部評価にあたっては、「Ⅰ 教育委員会の活動」及び「Ⅱ 教育委員会が管理・執行する事務」については、各取組の実施状況に対して、評価基準を「A. 達成できた」「B. おおむね達成できた」「C. 達成できなかった」の3

段階評価として教育委員会が自己点検・評価したものを項目ごとに外部評価委員がその内容を確認し、別紙評価シートに評価を記載するとともに、以下の所見で総合的评价を記載する形を採っている。また、「Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「有効性」「効率性」「達成度」の観点及びそれら3つの「総合評価」という4つの観点が設定されている。そして、「有効性」の観点から「A. 有効である」「B. おおむね有効である」「C. あまり有効でない」、また「効率性」の観点から「A. 実施できている」「B. おおむね実施できている」「C. 実施できていない」、「達成度」の観点から「A. 期待を上回る」「B. おおむね期待どおり」「C. 期待を下回る」、最後に「総合評価」として「A. 達成できた」、「B. おおむね達成できた」、「C. 達成できなかった」のそれぞれ評価判断基準を設けた。

この評価方法による各項目の点検・評価の結果について、外部評価委員会は、2回に亘る聞き取りにおいて各担当部署に具体的な説明を求め、別紙評価シートにできる限り簡潔にその評価を記載するとともに、以下の所見において詳細に述べている。

2. 「教育委員会の活動」及び「教育委員会が管理・執行する事務」に対する外部評価

ここでは、上記「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」に係る取組について所見を述べる。

[1] 教育委員会の活動

(1) みやこ町教育委員会会議の運営、公開等

① 教育委員会会議の運営改善に関すること

会議は定例会11回が計画的に開催され、適切な運営がなされていると判断する。また、案件については、事務局から提案し、学校教育課長及び生涯教育課長が説明し、詳細については担当係長等が補足説明をするなど、綿密な提案と慎重な審議が行われ、教育委員会としての方針を示したことで学校が混乱することなく、教育活動を継続できたことは評価したい。

② 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信に関すること

これまでの外部評価において、教育委員会会議をはじめ、自己点検・評価や外部評価に関する情報の公開、並びに会議の傍聴を促す取組を積極的に推進してほしい旨を指摘してきた。そうした指摘に対応して、平成25年度以降、教育委員会開催についてホームページに掲載し周知を図るなどの努力が継続的に行われてきた点を評価する。今後も町広報誌等の利用及びホームページやSNS等による情報公開など、住民の積極的関与のための工夫を期待する。

③ 教育委員の自己研鑽に関すること

研修会に計画的・継続的に参加していることが確認された。今後も教育方法や教育内容の急激な変化に対応できるように、研修会や研究協議会等への参加による知見（情報等）を確実にフィードバックし、みやこ町の教育行政や教育実践の改善・改革に結びつけるよう一層の研鑽・研修の充実を期待したい。

④ 学校及び教育施設に対する支援・条件整備に関すること

学校や地域の状況を把握するために積極的・定期的に学校及び所管の教育施設を訪問していることを評価したい。今後も学校を訪問した際の児童生徒や教職員の頑張りを評価し、学校へフィードバックすることを通して、学校の教育活動を支援していただきたい。

[2] 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) 本年度もみやこ町教育施策について審議・策定し、定期開催される校長会での説明を行った上で各学校に配付していることが確認された。今後も教育委員会の考え方及びその政策遂行について、各校長が作成する学校経営要綱へ具体的に反映し、具現化することを期待したい。今後も継続するとともに、学校運営の在り方を交流し合う場と機会を設け、よりよい学校教育の在り方を確かなものにしていただきたい。
- (2) 教育行政の運営の必要上あるいは各学校及び地域の教育現状等への対応の必要性など、時代の変化や状況に伴った見直しが常に行われ、適切に諸規則の改正等のアップデートを行っているとは判断し、評価したい。
- (3) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事項では、学校のニーズに応えた適任者の選定がなされていると判断する。今後も、日常的な町内の人材情報の収集を行い、経験豊富で適切な人材を任命するよう心がけることを期待するとともに、適任者の選定に関するより厳選で公明なシステムが必要であり、質的向上を継続的に図っていただきたい。

3. 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に対する外部評価

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、「みやこ町総合計画」に則り4つに大別された大項目「子どもの教育環境の充実」、「社会教育の充実」、「スポーツの推進」、「地域文化継承と振興」であり、それぞれの大項目のもとにいくつかの主要施策、さらにその主要施策のもとに主要事業が示されている。点検評価は、主要事業の有効性、効率性、達成度を確認し評価したものである。以下は、教育委員会による自己点検評価に対して外部評価委員会が実施した評価の所見である。

<1>子どもの学習環境の充実

標記の主要施策のもとに、「子どもの教育環境の充実を図ります」「子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります」「家庭の教育力の向上を図ります」の3つの主要施策が設けられている。

(1) 子どもの教育環境の充実を図ります

この主要施策のもとに、「確かな学力の育成」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」、「特別支援教育の推進」、「信頼される学校づくり」の5つの主要事業が示されている。

「確かな学力の育成」については、「確かな学力育成を図る教職員研修の充実」、「家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立」、「学力向上推進事業の効率的活用」、「少人数学級等、多様な教育活動の推進」、「ICT教育の推進」の5つの取組が、また、「豊かな心の育成」については、「道徳の授業改善」、「生徒指導体制の確立」、「豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進」、並びに「人権が尊重される学校づくり」の4つの取組が、そして、「健やかな体の育成」については、「体力向上に向けた教育活動の推進」、「安全・安心な学校給食の提供」の2つの取組が、「特別支援教育の推進」については、「児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進」、「通級指導の充実」の2つの取組が、さらに、「信頼される学校づくり」については、「地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進」、「家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進」の2つの取組がそれぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「確かな学力育成を図る教職員研修の充実」については、5年未満の若年教員や非常勤講師等の研修だけでなく、校長や教頭、主幹教諭・教務を対象とした研修会を計画的に実施していることを評価したい。今後は、近年多様な意識や経験をもつ人材が学校に採用される傾向を踏まえた上で、ベテラン教員から若年層教員への指導技術の伝承にとどまらず、若年層教員が得意とする ICT 活用等をベテラン教員が学ぶ等の双方向性の資質向上が促される職員室風土の醸成を促す取組を期待する。
- ② 「家庭・地域と連携した学ぶ意欲と基本的生活習慣の確立」については、小学校における家庭学習に活用できる副教材や小中が連携した基本的生活習慣に関するリーフレットを作成・配付するとともに、デジタルドリルの購入とタブレットを活用した家庭学習環境の整備や小学校に家庭学習に活用できる副教材を配布して、学力向上につなげていることを評価したい。なお、タブレットの持ち帰りには明確なルールと毀損した場合の補償基準を明確にするべきと考える。
- ③ 「学力向上推進事業の効率的活用」については、補助教材の配付や学力調査の実施、中学校による実力テストの実施、多様な人材や民間の教育施設等の人的・物的教育資源を活用した取組などを通して、学力の定着や指導改善につなげていることを評価したい。今後は、課題となった指導内容への対応・対策を各学校の実態に応じて具体化していくことを期待したい。
- ④ 「少人数学級等、多様な教育活動の推進」については、国による地域特有の配分予算を活用した町雇用教員の配置がなされていることを高く評価したい。なお、管内の子どもたちに教育格差が生じないように配慮しながら推進してもらいたい。
- ⑤ 「ICT教育の推進」については、学校の意見を取り入れた ICT 活用計画を策定したり、それに応じて周辺機器整備計画を見直したりして ICT、特にタブレットを活用した学習指導を推進したことを評価したい。今後は、ICT 活用の必然性を明確にするとともに、具体的な活用事例を公開し共有化していくことでより効果的・効率的な活用が推進されることを期待したい。また、教員個々の資質・能力等の教育現場の状況を勘案しながら、教職員研修の充実等を通して指導者による教育格差が生じないように配慮願いたい。
- ⑥ 「道徳の授業改善」については、県内の研修会へ意図的・計画的に参加・派遣を行い、計画的な人材育成が行われていることを評価

したい。

- ⑦ 「生徒指導体制の確立」については、ソーシャルワーカーの支援・相談・情報提供が確実に実施されている。特に不登校対策に対して、行政や大学、多様な人材を活用した支援を行っていることを評価したい。今後も学校現場での状況把握を十分に行い、必要な人材確保を進めて、生徒指導上の重要課題である不登校対策やいじめ防止に向けた取組のより一層の充実を望む。
- ⑧ 「豊かな感性や想像力を育てる読書活動の推進」については、「子どもの読書推進計画」に沿って読書リーダー養成がなされていることなどが評価できる。今後は、放課後や昼休みを利用した図書室の充実等、学校図書司書と読書リーダーの連携及び中央図書館と連携した活用を行うことが望まれる。なお、中央図書館と十分な連携を行って取組を推進するためには、本事業を生涯学習課で所管することが望ましいと考える。
- ⑨ 「体力向上に向けた教育活動の推進」については、どのような課題を把握し、どのような取組を行ったのかを具体的に示すべきと思われる。特に中学校において前年度は女子の結果が平均を下回っていたが、今回男女ともに平均を下回った原因を分析して、今後の手立てを検討していただきたい。
- ⑩ 「安全・安心な学校給食の提供」については、地場産農産物の利用促進のために給食写真を活用したフェイスブックでの紹介や地場産農作物の利用促進や食育指導の充実が図られている。特に、給食の無償化に関する行政としての取組と併せて食料品価格が高騰している中、給食の質の確保に努めていることを高く評価したい。今後も引き続き食物アレルギー対策には万全を期することをお願いする。
- ⑪ 「児童生徒のニーズにあった指導・支援の推進」については、人的配置が計画的・継続的に行われていることを評価したい。今後も教育的ニーズに応じた体制づくりのためにも、協力員等の指導力量のある人材確保と配置及び増員を今後も期待したい。さらには、就学前からの指導の引き継ぎを図るためにも、福祉課や子育て支援課等の他部署や幼稚園・保育所等との連携が必要であるため、その連携のシステムを一層強化していただきたい。
- ⑫ 「通級指導の充実」については、町独自の予算を効果的に活用して人材確保を行ったり、保護者のニーズに応じたりしながら特別支援教育の充実に努めていることを評価したい。なお、指導員は3名巡回型で対応が十分なのかどうかを検証し、担任の負担軽減に努めることが必要であると考え。
- ⑬ 「地域に信頼される、魅力ある学校づくりの推進」については、学校と教育委員会とのコミュニケーションを重視した取組を評価したい。なお、本取組が形骸化しないよう内容や実施方法の工夫・改善を望む。
- ⑭ 「家庭や地域と連携・協力した学校づくりの推進」については、令和5年度の犀川小・中学校・伊良原小中学校の導入に加えて、令和6年度に豊津小中学校においてコミュニティースクールの導入を開始したことを評価したい。なお、コミュニティースクールの

推進に関する適切な予算措置学校と地域をつなぐコーディネーターの配置を継続することを望む。

(2) 子どもが安全・安心して教育を受けられる環境をつくります

この主要施策では、「学校施設の効率的な維持安全」「統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進」、「保護者の経済的負担の軽減」が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「学校施設の効率的な維持安全」については、老朽化した校舎等の計画的な修繕・改修が行われていることを評価したい。
- ② 「統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進」については、町立中学校及び勝山地区小学校の再編整備にあたり、候補地の選定は様々な事情を十分に配慮しつつ、速やかに決定することを期待する。
- ③ 「生活困窮支援事業」については、ウェブ申請の導入による申請環境の充実を図る積極的な取組を評価したい。引き続き保護者の経済的負担を軽減し、子どもの学びを支える取組の充実を望む。

(3) 家庭の教育力の向上を図ります

この主要施策では、「保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり」、「豊かな感性を持った子どもの育成を図る体験教室の実施」が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「保護者が自主的・主体的に親として学習と実践ができる仕組みづくり」については、家庭教育力向上を目的とした取組が計画的に実施され、保護者の意識改革を促していることを評価したい。今後は講演会の実施と併せて保護者の意識改革を促す手立てのさらなる検討をお願いしたい。
- ② 「豊かな感性を持った子どもの育成を図る体験教室の実施」については、「鍛えよう！ほめようプロジェクト」への取組が効果をあげているため継続を期待したい。なお、自尊心や学ぶ意欲を高める取組みとはどういったものか、又、評価基準を明確にすべきであると考えている。

<2>社会教育の充実

標記の主要施策のもとに、「生涯学習環境の整備を進めます」「図書館の利用を促進します」「図書館を活用した地域文化活動を促進します」、「歴史民俗博物館の事業促進と機能強化を図ります」の4つの主要施策が設けられている。

(1) 生涯学習環境の整備を進めます

この主要施策のもとに、「情報提供の充実とライフステージに応じた学習機会の提供」、「公民館活動の活性化と地域住民の学習活動へ

の参加の促進」、「地域人材を活用した学習内容の充実」、「文化施設を活用した学習活動の推進」の4つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「情報提供の充実とライフステージに応じた学習機会の提供」については、各地区での計画的な開催及び内容の充実、対象者を固定せず、広く募集していることを評価したい。なお、受講者が減少する中で、どのように講座内容の充実を図ったのかを明確にしていきたい。
- ② 「公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参加の促進」については、資格を有する社会教育主事の配置や講座内容がマンネリ化しないようにしたり、開催内容がわかるように周知方法を工夫したりして参加促進につなげていただきたい。
- ③ 「地域人材を活用した学習内容の充実」については、地元ボランティアが中心となっていて行っている諫山校区アンビシャス広場の活動に対して、補助金の交付及び人的支援を行ったことを評価したい。なお、課題として指摘されている人材育成の取組について、具体的に示すべきであると考え。
- ④ 「文化施設を活用した学習活動の推進」については、学校との連携によるみやこ町の強みである博物館等の充実した教育的資源を生かした取組の推進を期待する。なお、博物館友の会の自主運営は簡単にはできないので、しっかりとした支援が必要である。また、担当職員のマンパワーは限られているので、ボランティア連携と行政支援の充実を望む。

(2) 図書館の利用を促進します

この主要施策のもとに、「多様な資料の提供と、快適な読書環境の整備」、「広報活動の充実と各種行事の開催」、「関係機関と連携した子どもの読書活動の推進」の3つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「多様な資料の提供と、快適な読書環境の整備」については、電子図書館の活用を評価したい。なお、町域が広範囲であるみやこ町において、電子書籍だけでは対応が難しいと考える。移動図書館の活用や宅配貸出し等、図書館の利用促進の図り方を検討するべきである。
- ② 「広報活動の充実と各種行事の開催」については、前年度の「美味しいコーヒーの淹れ方」に続き、読書に対する興味・関心が高くない方も参加したくなるような魅力的な講座を設定し、継続的に読書人口の拡大に努めていることを高く評価したい。
- ③ 「関係機関と連携した子どもの読書活動の推進」については、限られた人材と予算の中での事業実施を評価したい。今後は学校図書館との連携も考慮するべきと考える。また、読書習慣の定着にとどまらず、家庭の教育力の向上に繋がる事業となることを期待する。

(3) 図書館を活用した地域文化活動を促進します

この主要施策のもとに、「人材の育成及び確保」、「地域住民による文化活動の推進」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「人材の育成及び確保」については、県立図書館等と連携して人材育成に努めていただきたい。なお、活動支援は司書の資質が大きくかわるので、支援体制構築のためにも正規職員の司書が必要と思われる。
- ② 「地域住民による文化活動の推進」については、連携事業の実施を評価するとともに、今後も博物館の企画と連携した企画に期待したい。

(4) 歴史民俗博物館の事業促進と機能強化を図ります

この主要施策のもとに、「博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催」、「歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「博物館の体制強化と文化資源を活かした企画展の開催」については、老朽化した施設の修繕にとどまらず、新規事業を実施するなど博物館事業の積極的な取組を評価したい。なお、専門職の育成は容易ではないので、担当職員の定年にあわせて計画的に職員を確保すべきであると考えます。
- ② 「歴史文化遺産の保護と公開・情報の発信」については、数多くの文化遺産に恵まれたみやこ町の魅力を継続的に発信していくことを期待する。なお、博物館法の改正により、資料のデジタル化は急務であり、計画的な取組を求めたい。

<3>スポーツの推進

標記の主要施策のもとに、「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します」「競技スポーツを振興します」「指導者の育成・発掘を行います」「既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します」の4つの主要施策が設けられている。

(1) 住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します

この主要施策のもとに、「気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進」、「健康づくり、生きがいにむけての運動機会の提供」の2つの主要事業が示されている。

「気軽に参加し、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動の推進」については、「海洋性スポーツの普及」、「スポーツ推進委員等によるニュースポーツの普及・推進」、「スポーツフェスタの充実」、「アダプテッド・スポーツの取組」、「ホームページの管理・運営事業」の5つの取組がそれぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「海洋性スポーツの普及」については、みやこまち町の地理的特性を生かした取組が推進されていることを評価したい。

- ② 「スポーツフェスタの充実」については、スポーツ推進員を活用し、プログラムの充実を図るための普及活動をおこなうべきである
と考える。
- ③ 「アダプテッド・スポーツの取組」については、本事業の推進を評価したい。今後は、指導者の育成及び担当課や障がい者団体と連
携して、障がい者や高齢者の参加数が増加するよう積極的な取組を期待する。
- ④ 「健康づくり、生きがいをづくりに向けての運動機会の提供」については、スポネットTOYOTSUの事業内容の周知方法を工夫
し、周辺住民に留まらず、広く町民が参加できる事を期待する。

(2) 競技スポーツを振興します

この主要施策のもとに、「体育協会を中心としてチャンピオンシップスポーツの振興」の主要事業が示されている。

- ① 体育協会を中心としてチャンピオンシップスポーツの振興については、体育協会主催の様々なスポーツ活動が実施されており、
それを支援している成果が現れてきていることを評価したい。また、若男女を問わず、夢や希望を育む事業としての充実と発展を期
待する。

(3) 指導者の育成・発掘を行います

この主要施策のもとに、「スポーツ・レクリエーション指導者の育成」、「スポーツリーダーバンクの構築と活用」の2つの主要事業が
示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「スポーツリーダーバンクの構築と活用」については、指導者養成研修事業の充実を図るとともに、中学校部活動の地域移行を考
慮した人材育成が必要であると考え。

(4) 既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します

この主要施策のもとに、「複合的な活用を考えたスポーツ施設の活用」、「海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G 財団）の利用
促進」の2つの主要事業が示されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G 財団）の利用促進」については、前年度に引き続き利用者数が大きく伸びているこ
とを高く評価したい。今後も学校や各種団体との連携による事業推進の継続を望む。

<4>地域文化の継承と振興

標記の主要施策のもとに、「町内の文化財の保存と活用を推進します」「遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します」「文化団体などの
活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します」の3つの主要施策が設けられている。

(1) 町内の文化財の保存と活用を推進します

この主要施策のもとに、「歴史公園の有効活用」、「国、県町指定文化財の普及啓発」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「歴史公園の有効活用」については、数多くの文化遺産に恵まれた町の魅力発信に繋がる取組の継続と拡大を期待したい。
- ② 「国、県町指定文化財の普及啓発」について、指定文化財保存の推進内容は示されているが、活用実績が見えない。訪問者に対するガイド事業や博物館活動を通じた取組が必要であると思われる。

(2) 遺跡・文化財の整備と広報普及を推進します

この主要施策のもとに、「遺跡保護のための調査、記録」、「文化財の適切な整備」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「遺跡保護のための調査、記録」については、豊前国跡政庁地区・清池神社南古墳群2次3次調査発掘調査に着手し、調査報告書を刊行したことを評価したい。
- ② 「文化財の適切な整備」については、町内に極めて重要な文化財が多く所在しており、史跡の管理計画を策定し整備を行うべきである。特に国指定文化財「橋塚古墳」がある黒田小学校は学校再編で候補地とせずに史跡公園として活用することを提案したい。

(3) 文化団体などの活動支援による地域文化を活かした文化振興事業を推進します

この主要施策のもとに、「文化財の保持・継承団体の支援」、「文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取り組みの支援」の2つの主要事業が示されている。

- ① 「文化財の保持・継承団体の支援」については、みやこ町の文化財保護への積極的な取組を評価したい。なお、コロナ禍からの影響を踏まえ、地域伝統芸能の継承に支援をするべきと考える。
- ② 「文化振興につながる活動や、自主運営に向けた取り組みの支援」については、他の関連事業等との連携による取組の充実を図り、サン・グレートみやこを住民のクオリティオブライフを高めるために活用推進をはかるべきである。

4. 全体所見

これまで主要事業の各取組について評価してきたが、最後に全体所見として以下の3点を記しておきたい。

(1) 成果のある事業の継続・充実

「みやこ町第3次総合計画(2021～2025年)の基本計画に示された主要施策・主要事業に対応した、「1 子どもの教育環境の充実」、「2 社会教育の充実」、「3 スポーツの推進」、「4 地域文化の継承と振興」の4つの施策から構成された令和6年度の主要事業に関しては、いずれの項目においても概ね着実に施されていると判断する。また、いずれの取組も計画的に実施され、その検証も確実に行われている点を高く評価したい。特に顕著な成果をあげている事業として以下の取組を示す。

「子どもの教育環境の充実」での「確かな学力の育成」における町教委主催の若年教員研修の実施と併せて校長や教頭、主幹教諭・教務主任を対象とした学力向上を図る研修をそれぞれの役割に応じて実施していることやデジタルドリルの導入を通して、学力向上を図る積極的な取組がなされている。「健やかな体の育成」におけるみやこ町産野菜の使用や食育の日の取組として行われた給食写真を活用した地場産農産物のフェイスブックでの紹介、給食の無償化に取り組むとともに、食料品価格が高騰している中、給食の質の確保に努めていることも指摘しておきたい。「特別支援教育の推進」における合理的配慮協力員の配置や巡回による通級指導等のみやこ町の独自予算を効果的に活用した人材確保、「信頼される学校づくり」における地域学校協働活動の充実及びコミュニティスクールの推進を図るため退職校長をコーディネーターとして配置して円滑な運営に努めている。「学校施設や効率的な維持保全」における長寿命化計画に沿った修繕・改修や「保護者の経済的負担の軽減」におけるウェブ申請の導入による申請環境の充実等の保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等に資する積極的な取組がなされている。「社会教育の充実」では「図書館利用の促進」における電子図書館の導入及び読書に対する興味・関心の薄い方も参加したくなるような魅力ある読書週間関連事業の継続実施、「歴史民俗博物館の事業振興と機能強化」における老朽化した施設の修繕にとどまらず、新規事業を実施するなど博物館事業の積極的な取組がある。「スポーツの推進」では、「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進」における海洋性スポーツの普及や生きがいづくりに向けての運動機会の提供がある。さらに「地域文化の継続と振興」では、「遺跡・文化財の整備と広報普及の推進」における遺跡保護のための意図的・計画的な調査・記録の実施に伴い、2件（豊前国跡政庁地区・清池神社南古墳群2次3次調査）の調査報告書を刊行したことは有効な取組である。

（2）他課との連携及び情報の共有化による効果的・効率的な事業展開の継続・発展

現在、施策や事業については、みやこ町教育委員会内の連携によって、主要施策の決定や取組・事業名及び担当課の決定等が行われ、担当各課を中心に必要に応じて首長部局の他課と連携して施策や事業の具体的な取組が行われている。今後も子どもたちや地域住民の人的、物的教育資源の充実と併せてみやこまちの住民のクオリティーオブライフの向上に資する取組を期待する。

今後の各施策の実施の在り方としては、単独事業としてのよさは残しつつも、他部署との連携・協働事業として展開するとより効果的・効率的な事業となることも考えられる。その中であって、必要不可欠なことは情報の共有化である。これは関連部署だけでなく地域住民に対しても同様のことが求められている。積極的に他部署や他の教育機関・施設との連携のビジョンとシステムの確立を行っていく中、ICT 機器や SNS といった手法を用いながら情報の共有化と事業の拡大・発展を期待したい。

（3）教育支援と歴史・文化遺産等に恵まれたみやこ町の魅力発信につながる取組の継続と拡大

国からの地域特有の配分予算を活用した町雇用教員の配置や給食の無償化、ウェブ申請の導入による就学援助の申請簡素化等、教育の

充実と家庭への経済的支援についての積極的な取組は高く評価できる。食材が高騰する中、無償化に取り組みながらも給食の質を維持している行政努力は特筆できるものといえよう。また、数多くの重要な歴史・文化財等の計画的な保存管理事業の推進及び歴史・文化財資料のデジタル化や WEB 化の推進は、有効な取組である。今後もこれらの事業を推進し、みやこ町の教育の充実と魅力発信の継続と拡大を望む。